

《波賀部神社》

波賀部神社の社殿の後には、松山平野で現存する最大級の前方後円墳と言われている波賀部神社古墳があります。元々は、古墳そのものをご神体として大塚神（おうづかしん）として拝んでいたそうですが、奈良時代に大三島明神（おおみしま みょうじん）から分霊して三島神社と呼ばれていました。

その後、平安時代に嵯峨天皇の皇子である源寛王命（みなもと かんおうのみこと）が伊予の国主として赴任され、この地で亡くなられた際に三島神社の辺りに葬ったそうです。これ以降、三島神社は寛王の墓のそばなので、墓辺神（はかべしん）と言われるようになったそうです。しかし、明治の時代になってから、墓の字を嫌って今の名前「波賀部（はかべ）」になったそうです。



【鳥居】



【境内】



【社殿】



【波賀部神社古墳】